



3108

草稿

天下之理一而已矣... (Faint handwritten text in vertical columns)



114
A1380

士族少年ヲ北海道ニ移スノ議

天下ノ士族ハ既ニ常職無シ又常祿無シ金祿公債ノ
恩賜ハ大概之ヲ他人ニ賣却シテ隨テ生計出途ヲ失ヒ
日一日ヨリモ貧賤且寔女ニ迫リ近時慘情遂ニ其甚キヲ露
ス萬人俱ニ見聞スル所ナリ族閥ハ華門ニ次キ遠ク民籍
ノ上ニ位スト虽氏其實乞巧ト伍ヲ為シ仮令僅ニ維持スル者
アリト虽氏前途ノ帰スル所其方向ニ迷惑セサル者殆ント稀ナリ
誠ニ憫ムヘシ而ノ有ト其人ノ氣力ニ乏ク又材藝乏有セザル衆
以テ自ラ為スノ禍ノ也然氏幼ニシテ之ヲ學ビ長シテ之ヲ行ハ
ント欲スル者ハ今日既ニ無用ニ屬シ反テ今日生計ノ要務ハ
幼時ノ賤業視シテ一閱尚ホ厭フ所ナリ故ニ早ク移ルノ志ヲ
立ルト能ハサルハ乃ケテ氣力乏キノ衆ト云フト虽氏或ハ可ナラシ
持ニ材藝ノ優劣ニ至テハ稍々如スヘキ者アリト謂ハサ

大正十一年四月

明治會士東京分會

ルヲ得ス况ヤ眼ヲ轉シテ維新ノ當時ヲ見ヨ

聖天子と在マシ賢婦紳側ニ在リ以テ能ク明治ノ偉業ヲ立ツト莫ク抑モ亦天下ノ諸侯共テカブリ諸侯ノカハ鳥ンソ今日ノ士族ノカニ非ルハ一無ヤヲ知ランヤ此ニ因ラシテ言フ所ハ今日ノ士族誠ニ窮迫シ次第籍ニ乞テ入ルト莫ク之ヲ自ラ為セル禍トシ救ハズシテ可ナル者ト為ス歎然士族二十餘萬戸遠ニ五産ヲ授ケ業ニ就カシメント欲スト莫ク又得ベキ者ニ非ラズ又後ニ姑息ノ救助ハ偶々其人ヲ惜弱ニ率ユルニシテ其最ニ北海道ニ於テ耕地拾萬町歩下附ノ特典ヲ賜フ以テ天下ノ士族移スヘシ一家ノ産業授クシト因テ明治十二年以テ試ニ士族ヲ勸誘シテ渡航セシメヨ等テ農事ニ服後セシム而シテ其能ク耐ユル者ハ毎員ニ百中ノ一二ナルニ速ナル者ハ兩三日漸ナル

者三四月ニシテ皆業ヲ廢シ或ハ脱歸シ或ハ他ニ轉ス懇諭百方兼テ接遇ヲ加フト莫ク既ニ丁年ニ過ル者ハ旧慣全ク脱セス辭ニ曰ク農事ハ賤業ナリ肥料ハ汚物ナリ忍フカラスト輒チ去ル誠ニ毎々慨歎ヲ極メリ独リ少年ハ然ラス西洋機械ノ運用牛馬飼養ノ方法等授クル所概ニ皆チ能ク習ヒ以テ一家ノ純農トナル者少シトセズ此謂幼ニシテ學チテ者ハ其車專ニシテ雜ナラズ長シテ學チテ者ハ心意他ニ馳セ大抵中止セサル者尠シ是レ現時ノ實驗ナリ因テ今天下士族少年ヲシテ北海道ニ移シ農事ニ服從セシメ既ニ純然チ得ルノ日ニ於テ其一家ヲ合セテ移住セシムルハ永年ノ生計ヲ當マシムルニ足ルベシ某士族少年ヲ誘導シテ北海道ニ移住セシメント欲シ談規則ヲ州スルト別冊ノ如シ而シテ之ヲ實施ス尤其經費固チ額

ニ非ズ尤モ開進會社ノ事業ト相連絡スルヲ以テ大藏
省スル所アリト虽尺少クシテ年拾万圓ヲ要スルシ爲メニ
姑ラク之ヲ筐中ニ置テ護セズ然レ孰々天下士族ノ景
况ヲ考フルニ今自 倘シ措テ救ハズ躬迫漸ク加ハルハ
終ニ恒心ヲ放擲シ誤テ奸雄ノ次員トナル亦知ルベカラズ
過慮一タセシ爰ニ及ブゴトニ未タ嘗テ寒心セスレバアラス是
某以規則ヲ草シテ全ク捨ツル一能ハズ所以ナリ謹
議

山石橋輟輔

現業生徒取立規則

第一條

現業生徒ハ士族ト主又ハ其附籍年齢ハ滿十四年
以上二十年以下壯健無病ニシテ確實ナル保証者アル
者ニ限ルニシ

第二條

現業生徒ハ北海道ニ送籍スル者ハ東京青木ヨリ管轄
渡航ヲ得ベシ寄留ハ旅費自辨スルニ送籍者五拾名
以上ナルハ系籍近傍安全ナル港湾ニ官船ヲ圖シ
渡航スルヲ得ベシ

第三條

移着ノ最初ハ渾テ九等生徒トス而シテ現業科熟
達スルニ後ハ漸次一等生徒ト進ムモノトス

第四條

一、生徒より九等生徒迄接遇ノ差異ヲ示ス如

一等

食料 先ニ一ヶ月 金五円ヲ
給與ス

二等

食料 先ニ一ヶ月 金四円ヲ
給與ス

三等

食料 先ニ一ヶ月 金三円ヲ
給與ス

四等

食料 先ニ一ヶ月 金貳円ヲ
給與ス

五等

食料 衣類ヲ貸付シ一ヶ月 金
壹円五拾錢ヲ給與ス

六等

食料 衣類ヲ貸與シ一ヶ月 金
壹円ヲ給與ス

七等

食料ヲ貸付シ一ヶ月 金八拾
錢ヲ給與ス

八等

食料ヲ貸付シ一ヶ月 金六拾錢
ヲ給與ス

九等

食料ノ外一ヶ月 金五拾錢ヲ
貸付ス

第五條

貸費ノ返納ハ三等ニ至テ始マル即ケ三等生徒ハ月給三円

ノ三割金九拾錢ヲ納メ二等生徒ハ四円ノ三割金壹
円貳拾錢ヲ納メ一等生徒ハ五円ノ三割金壹円五拾錢
ヲ納ム一等生徒ニ至テ貸費ヲ償却シ了ル度トシテ当
社株式一株ヲ購入スルニ足ル金貸付利子年七割ニ步
賦ヲ以テ貸付スル可シ

第六條

右株式ヲ所有スル者ハ則チ五町歩ノ地所ニ就テ当社貸
地條件ニ遵據シ自耕ヲ為スニ該株式購入金ノ返
納ハ五年賦タル可シ

第七條

一等生徒ニ至ルハ当社よりノ貸費ヲ一時ニ自辦返戻ス
氏ハ退社自由タルニ且当社ノ株式ヲ購入スル為メ当社より
金貸付借用スルトセザルハ本人ノ勝手タルニシ

第八條

尚し当社株式ノ賣物無キキニ際モ未新物半地五町
歩拂下ヲ受クニヤ金莫ク貸付スルニ利子ハ国法制
限ニシテ期限ハ五年賦トス

第九條

本人事故アリ貸費返戻ララズシテ去ルルハ保証人
必ス之ヲ辨償スルシ貸費ニ對スル証各文例ハ紙尾ニ
掲クル如シ

第十條

毎年四月八月十二月ニ於テ試験シ勉強シテ怠タラザル
者ハ一等ヲ進メ就中卓越優等ノ者ハ一時ニ等ヲ進
ムルシ缺業ヲヤキ者ハ之ヲ進メズ怠慢惰弱業務ヲ勉
メ尤者ハ臨時貶等又ハ保証人ニ引渡カテスルニシ

第十一條

現業科目學科目及餘暇ニ研究スルキ工率科
目ハ左ノ如シ

現業科

第一部

- 新墾土犁運用法
- 碎塊器運用法
- 再墾土犁運用法
- 播種器運用法
- 收穫器運用法
- 馬車ノ運用法
- 積草土ノ運用法

第二部

各種機械ノ解組法
日本農具ノ使用法
各種機械ノ手入法

第三部

牛馬舎飼法
家畜放養法
家畜治療法

第四部

穀菜莖葉種藝法
種子良否 撰択法
植接挿木播実法

第五部

地質実験法

肥料実験法
更地換種法

第六部

鳥獸駆除法
百虫 駆除法

第七部

俵筵草靴製作法
麻藍及澱粉製作法

李業科

第一部

習字
美術

測量

製表

習画

第二部

化文字ノ大意

理文字ノ大意

機軸文字ノ大意

獸醫文字ノ大意

第三部

歴史

経済

修身

工率科

大工

鍛冶

屋根葺

杣

木挽

桶工

第十二條

生徒ノ講究スルキ科業ハ前條ノ如シト虽モ消ヨリ積聖迄ノ間ハ直寸ヲ現業科ニ後事スルシテ文字業ニ冬日聖宏心ニ於テ勉強スル者トス工率ハ将来唯僅ニ自家ノ用ヲ缺カサルニ止メテ可ナリ

第十三條

定式休業ハ大祭日ニ限ルニシ其外ハ農事家業ノ
祝日ニ休暇ス尤風雨甚シキノ日ニ於テハ野外ニ出テズ
ト虽氏制ニ依テ法ヲ研究スル者トス

第十四條

当社ノ経費ヲ以テ支辨スル者ハ左ノ如シ

- 家屋建築費
- 炊具食器
- 寢具書籍
- 教師給料
- 炊夫給料
- 和洋農具
- 病院常費
- 工業機械
- 浴室薪炭
- 炉用薪炭
- 點燈油費

第十五條

生徒自辨スルノ品目ハ左ノ如シ但シ第十四條ニ照合スルニシ

- 足袋草靴
- 筆紙墨類
- 理髮吹烟
- 食料衣服
- 自用諸物

第十六條

本社より貸付スル品目ハ左ノ如シ尤代金ニ定メ返
納スルニシ

但第十四條ニ照合スルニシ

- 入院費
- 手拭帽子
- 草靴用葦束

第十七條

生徒タル者ハ国法官令ヲ遵奉スルハ勿論当社ノ指揮
ニ服後スルニ尤左ノ社林ヲ犯ス者ハ此度處分スルニシ

飲酒

女色

密旅

黨典

懶惰

偽病

喧嘩

第十八條

生徒ハ毎日現業ニ従事スルハ食事ノ小憩ノ時間ヲ除キ全ク九時間間勉強服従スルニ故ニ務メテ早起スル者トス

第十九條

生徒ハ士族マシノ帰農者ニシテ後來ノ旧習ヲ脱却スルヲ旨トスルニ因テ食品ハ農家ノ風慣ニ倣ヒ粗糲ヲ甘ンセサルハカラス食事ノ制限大略左ノ目的ヲ以テ施行スルニ

夏至節 (前後ハ漸ク伸縮ス)

午前五時 朝食

米飯一汁 香ノ物

午前十時 昼食

米六麥四飯一菜 香ノ物

午後三時 間食

芋又ハ豆交リ團飯香ノ物

午後六時 晩食

白米飯一菜汁ノ内香ノ物

冬至節 (前後ハ漸ク縮ス)

午前七時 朝食

米飯一汁 香ノ物

正午 昼食

米六麥四飯一菜汁ノ内香ノ物

午後五時 晩食

米飯 五

午後九時 夜食

芋又ハ豆交リ粥香ノ物

第二十條

生徒ハ若クハ父母ノ病ヲ除クノ外容易ニ飯省スベカラズ且本社ノ許認ヲ經ルハ北海道中ハ私ニ旅行スルヲ得ルト雖モ旅費自辨ハ勿論旅行中ハ貸附又ハ支

給物ヲ傳テル者トス

第二十一條

一 等 給ニ至リ當社ノ負債ヲ償却シ了ル後ニ於テ本
社貸地人々ラント叙セバ成規ノ如ク家屋農具牛馬其
外共貸附スベシ其際ニ臨ミ家族ヲ送籍シ移住セシム
ルモ勝手タルベシ 渾テ貸地條件ニ準據スベシ

第二十二條

一 等 給ニ至リ當社ノ負債ヲ償却シ了ル後本人々布
望ニ因テハ其能力卓越ノ者ニ限り之ヲ當社ニ採用
シ又ハ他ニ推舉スルコトアルベシ

第二十三條

生後タル年間ニ於テ万一不幸ニシテ病死スルハ社費ヲ
以テ埋葬サスベシ一醫師診斷昏ヲ添テ速ニ其保証人

又ハ親戚ノ内ニ通知スベシ尤重病不治ノ症ニ附ルルハ
當社ヨリ電信ヲ以テ通知スベシ

但死者當社ヨリ貸附アリト雖氏之ヲ保証人ヨリ
辨償セシメサル者トス

第二十四條

生徒ノ姓名及ヒ國郡町村ヲ記シ各自相當ノ等給ヲ
示シ毎年十二月ニ於テ之ヲ印刷シ其保証人又ハ親
戚内ニ當社ヨリ配達スベシ

第二十五條

生徒國法官令ヲ犯スハ勿論其品行ヲ失ヒ社則
ヲ犯スモノハ各組相應ニ處分ヲナシ之ヲ新刊紙ニ掲
ケ世上ニ廣ク告スベシ

第二十六條

生徒タル者ハ現ニ予ニ業ヲ勉強シ早ク一學ヲ給ニ進ミ
貸費償却シ純農自立ノ身トナルニ注意スルニ其
点ニ至ラサル間ハ其実当社ノ約定ノ雇入人ト心得ベシ
第二十七條

我國ノ慣習自農農家ノ肥糞、ヲ運搬シ牛馬ヲ飼養スル等
ヲ視テ之ヲ賤業トス莫ニ誤レルノ甚キ者ナリ此等ノ事
業ハ自立独行ノ基礎ニシテ豪農大家ト为ルノ階梯ナ
リ近時大ニ農政ノ振ヲニ際ス全国ノ少年士族奮テ
事ニ茲ニ從ハザルニカラス

第二十八條

士族少年ヲ募ク集ムル其人貧乏ノ豫業ハ一々年二千
トシ滿十五年ニシテ三万人ト見据ヘタリ然レ氏年々之カ
メニ費ハ元所ノ金額實ニ巨万ニ至ル未タ其支辨方法ヲ

得ス同志者ノ賛成ヲ仰請シ以テ必ス其方法ヲ
得ント欲ス

第二十九條

因テ此規則ハ之ヲ公ケニ頒布スル者ニテラズ唯其針路
ヲ畧草シ以テ同志戮力カノ賛成者ニ呈シ其高
價ヲ有ラズ

第三十條

此草稿ハ唯天下士族ノ會員ニ窮日一日ヲモ迫ルヲ自致
シ此稿ニシテ自愛セ思シ其少年ヲシテ北海道ニ移シ農
業ニ從事セシメ隨テ旧習ヲ脱却セシメ一家純農以
テ自立独行セムルハ公私兩便ニシテ實ニ今日ノ長
策ト思考シ社業ノ餘暇遂ニ筆ヲ茲ニ下スノ
自テ我進會社ノ本業ト混同視スルコト勿シ

此項事務係由本會... 辦理... 凡我社員... 均應注意... 務求... 圓滿... 達成... 任務... 特此... 佈告... 仰祈... 鑒察... 此佈...

